

Annual Report

平成26年度 文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」採択事業
『産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実』

平成26年度 事業報告書





Outline

「映像での成果記録」と「実社会からの視点」を就業力
「就職に強いリベラルアーツ型大学」のモデルを目指し、以下の4フェ

I) Competency Faculty活動

本学独自の問題解決能力開発メソッド「C-PLATS®」をもとに学生を育成します。

全学生が履修する1~4年次必修科目(コア教育)はその成果を実践・応用する場として位置付けし、個々の専門科目では特に重点を置くコンピテンシー項目を指定してその伸張を図ります。

大手前大学はC-PLATS®能力の養成によって、「物事を単に知っている」のではなく、「実際に物事をやり遂げる」人材を育成しています。

C-PLATS®とは

リベラルアーツカレッジ・大手前大学がその使命として全ての学生に習得させる社会人基礎能力の体系です。学生が将来どのような道に進もうとも、数々の困難な問題を乗り越えて自らの人生を切り開いていくための10の能力(コンピテンシー)の習得を目指します。



評価

教員

●PBL型授業
●アドバイス

大学

eポート
フォリオ

問題



II) 就業力育成教育の実施

企業や外部組織との連携を前提とする卒業までの一貫した就業力育成教育を、問題解決型学習・Problem及びProject Based Learning (PBL) 方式により行います。

これらの活動を通じて総合的実践力を高め、就業意欲や就職活動の増強を図り、就職率を向上させることを目指します。

PBLとは

これまで行われていた「知識偏重型教育」は、講義を受けることで[知識レベル]は向上しても、実際にそれを[行動レベル]に結び付けるプロセスを体感するところまで至らず、いわば知識という道具を使えない状態に留まってしまいがちでした。

それを解消すべく、本学は全ての授業において「問題解決型学習」をコンセプトとしたカリキュラムを展開します。これは、まず問題(課題・テーマ)を設定し、その解決策を創造・発表・討論することを通して自然とC-PLATS®能力を習得させることができる学習メソッドです。PBL型学習を反復・継続することで学生の自発的な学習態度が引き出され、[行動できる力]を養うことができるようになります。



強化に活かします。
ーズに分けて推進します。

学生別コンピテンシー伸張の可視化

—“映像ポートフォリオ”への蓄積と外部評価・フィードバックによる就業力強化システム—

学生

成長の証



パフォーマンス

解決能力開発 - PLATS®

連携

Ⅲ) 教育効果の記録・蓄積

就業力育成の効果を測定するために、学生の発表などのパフォーマンス映像を記録・蓄積する映像ポートフォリオのシステムを構築します。

これらの映像は、学習過程の記録と併せ、自己評価・学生相互の評価はもとより、科目担当教員および教育ボランティアによる評価のフィードバックを受けるデータになります。

映像ポートフォリオとは

実際に授業で行ったプレゼンテーションなどを映像記録として残り、他者が客観的に評価・分析できるようにするためのツールです。データを蓄積できるため、大学生活における個人の成長記録にもなります。運用に関しては、大学が独自に開発したシステム(el-Campus)を最大限に活用します。

評価

アドバイス

教育
ボランティア

社会



Ⅳ) 外部との連携

本学の教育改革の取組みと成果を豊富な社会経験をお持ちの社会人の目から評価・助言していただき、教育の質を高めるため、平成23年度から教育ボランティアを導入しています。学生は教育ボランティアから課題提供を受け、学生はその研究・解決・実践の成果を授業中および映像ポートフォリオ上で口頭発表し、評価を受けています。

教育ボランティアとは

本学の学生の就業力について実社会の視点から評価していただく協力者のことです。

学生は、蓄積した映像ポートフォリオや、教室での活動の様子を教育ボランティアの視点から客観的に評価してもらうことで実社会との接点を見出し、就業への関心・研究心を継続させる原動力を得ることができます。

これらの活動を通じて総合的実践力を高め、就業意欲や就職活動の増強を図り、就職率を向上させることを目指します。

Activity | Competency Faculty活動、PBL型学習の実施、 教育ボランティアの進展、フォーラムの開催など、充実の一年。

本取組は、平成24年度から「産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実」として大阪・兵庫・和歌山の14大学グループによる取組となっています。本学では平成22年度から大学生の就業力育成支援事業「学生別コンピテンシー伸張の可視化」に取り組んできましたが、I)Competency Faculty活動、II)就業力育成教育の実施、III)教育効果の記録・蓄積、IV)外部との連携の4分野、さらに報告・評価の取組を継続し、一層強化して進めてきました。

I) Competency Faculty活動

C-PLATS®能力開発型の教育に転換する教育改革を進めるため、全専任教職員が一丸となり教育方法の研究など、FD活動を毎月行っています。この活動では全専任教職員がコンピテンシー別のグループに分かれ、能力開発手法・成功事例の発表やディスカッションを毎月行うことでコンピテンシーの共通理解を深めています。今年度は特にコンピテンシーごとのルーブリック作成を目指し、情報共有や意見交換を行ってきました。この活動の報告は非常勤講師を含めた懇談会(2月)と、全学FD(9月、3月)において各コンピテンシーのリーダーにより行われました。



■OCD (Otemae Competency Dictionary)

平成22年度にC-PLATS®能力開発型の教育に転換する教育改革の指針を示した『OCD (Otemae Competency Dictionary)』を発行しました。これは各コンピテンシーの定義・能力開発目的・目標、能力開発体系などを示したものです。さらに、コンピテンシー能力開発のための具体的な教育手法をリスト化した『OCDメソッド集』を作成しました。今年度は毎月開催されたCompetency Faculty活動の成果をまとめ、OCD改訂版として『OCD 2014』を発行いたしました。また、学生用に毎年『OCD【入門編】』を作成し、オリエンテーションで新生全員に配布し、具体的な内容の説明を行っています。また、本学の活動を全世界へ広めるべく『OCD【英語版】』も出版されています。

II) 就業力育成教育実施

■にしのみや学生ビジネスアイデアコンテスト2014

11月19日、ノボテル甲子園にて「にしのみや学生ビジネスアイデアコンテスト2014」が行われ、川島正章教授(総合文化学部)のゼミで研究に取り組んだ現代社会学部3年生の学生が西宮市の地域発展に寄与するアイデアとして「西宮ご朱印バスの運行〜ご朱印ガールin西宮〜」というタイトルで発表しました。この発表は西宮市内の神社仏閣にご朱印を集める若い女性たちを呼び込むことで、神社仏閣の知名度アップと市のイメージアップにつなげることを目的としたものであり、見事「西宮商工会議所会頭賞」を受賞しました。



■産学協働PBLモデルプログラム:Co-Creative Camp in Summer

14大学グループ主催の「Co-Creative Camp in Summer」(於:長居ユースホステル)に本学から4名の学生が参加しました。これは、協力企業・団体である南海電気鉄道株式会社・兵庫県庁・和歌山県のキミノカ(宇城農園)が抱える実際の課題に対し、チームで企画立案に取り組む合宿型プログラムで、8月19日から21日にかけて実施されました。初日はフレームワーク演習やチームビルディングのワークショップ等を通じて、企画立案に必要な知識やスキルを学びました。2日目は、学んだ理論や方法論を活かし、チームのメンバーで協力しながら企画立案を進め、最終日に協力企業・団体の責任者などに向けてプレゼンテーションを行いました。本学の2年生の学生がリーダーを務めたグループが、キミノカの課題である「冬に売れるジェラートの商品開発及び販売方法」の企画を発表し、最優秀に選ばれました。

■京丹後市久美浜町との域学連携事業

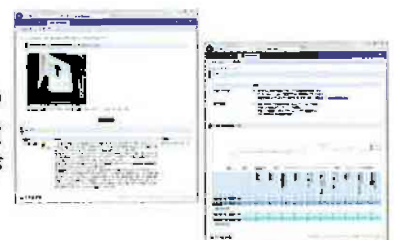
少子高齢化や若年層の流出など、地域課題の解決を目指し、域学連携事業に取り組んでいる京丹後市で、本学の谷村要講師(メディア・芸術学部)のゼミ生・34名が8月24日から28日までの5日間、夏合宿を実施しました。域学連携事業とは、地域連携のノウハウを持つ大学と地域が協力し、課題解決に向けた取り組みを行うものです。今年度はその一環として、①久美浜町蒲井・旭地区の振興、②久美浜町域の観光とスイーツ開発、③京丹後市のバスラッピングのデザイン作成をテーマに共同事業を実施しました。この夏合宿では久美浜町内の施設見学や漁業体験をはじめ、地元区民・関係者とのワークショップによる現地調査が行われました。参加学生は10月25日・26日に京丹後



市で開催された「公共政策学会」における「公共政策フォーラム」で、「コンテンツツーリズムによる地域資源連携の試み〜京丹後市・京丹後七姫を事例として〜」というテーマで今回の調査報告を発表しました。また、2月1日には京丹後市の北近畿タンゴ鉄道峰山駅前で開催された「京丹後七姫ラッピングバス出発式」が開催されました。バスにはメディア・芸術学部教員の審査を経て選ばれた6作品がラッピングされ、実際に路線バスとして市内を毎日走る予定です。今後も継続して京丹後市との共同事業を進めて参ります。

III) 教育効果の記録・蓄積

本学が独自に開発したeポートフォリオシステム(el-Campus)を平成23年度から導入し、大学の必修科目において学生の発表パフォーマンス映像やPBL課題レポートなどを定期的に記録・蓄積しています。蓄積された記録は、自己評価に加え、科目担当教員、外部の方の評価を受けることが可能となっています。





IV) 外部との連携

■教育ボランティア制度

本学の教育改革の取組みと成果を豊富な社会経験をお持ちの社会人の目から評価・助言していただき、教育の質を高めるため、平成23年度から教育ボランティア制度を導入し、必修科目との連携などに力を入れてきました。ホームページ等を用いて募集を行った結果、現在では355名の方が教育ボランティアに登録されています。



教育ボランティア候補者は実際に学生へのアドバイスを行う前に説明会及び研修へ参加していただきます。学生のプレゼンテーション映像を見ながら、どのように学生にアドバイスをするべきかなど話し合いを進めるなど、本学が実施している就業力育成教育についての理解を深めていただいた上で、授業内外のプログラムに参加していただく制度となっています。

今年度は新たに4年次必修科目「卒業研究」履修生の専門分野に関するアドバイスを実施しました。また、昨年と同様に必修科目「キャリアデザイン」(1,2年)及び「ゼミナール」(3年)の授業内で学生が行ったプレゼンテーションに対するコメントやアドバイス、授業外では2月に開催された全学プレゼンテーション大会(1~4年)における審査員等のプログラムにご協力いただきました。

学生の評価については、OCD内に記述したC-PLATS®に基づいた評価軸を基準としました。またプログラム終了後もeポートフォリオシステムに蓄積された学習記録について評価やアドバイスをしていただきました。

■PBL型インターンシップ

今年度は2年生と3年生の51名がPBL型インターンシップに参加し、学外の35の機関で就業体験を行いました。事前研修では「マナー研修」や「業界研究」を実施し、参加学生はこれから就業体験を行う企業について調査・分析した上でインターンシップに臨みました。事後研修でインターンシップ参加前・後のC-PLATS®能力のセルフチェックを学生に実施したところ、全項目とも平均点が上昇しており、インターンシップ参加後に数値が上がった学生は40名でした。インターンシップ参加により、多くの学生のC-PLATS®能力に向上が見られました。



その成果として、授業内で全員が事後報告プレゼンテーションを行い、その中から優秀と認められた5名の学生が10月14日に実施したインターンシップ・プレゼンテーション大会で「私が就業体験で得たもの」をテーマにプレゼンテーションを行いました。授業終了後の遅い時間からの開始にもかかわらず、本学の教職員を始め、インターンシップへの参加を希望している学生、学外からも多くの方が集まり、活発な質疑応答がなされました。

■PBL特別演習

成績により選出した特に優秀な学生を対象とした「PBL特別演習」を開講しました。今年度は株式会社コース・キャリアセンター代表取締役社長・村上文雄様に授業運営をお願いしました。この授業の目的は、参加学生の就業力と社会人基礎力を醸成すると同時に、他の学生に対するオピニオンリーダー的存在として育成することです。参加学生は解題テーマの解決に向けた討議や、他大学の学生・社会人との交流など、社会で必要なスキルを実践的に学んできました。学びの成果として12月13日にはグループプレゼンテーションを行い、学外ゲストの社会人5名から様々なコメントやアドバイスをいただきました。

■全学プレゼンテーション大会

2月13日に全学プレゼンテーション大会を本学・いたみ稲野キャンパスにて開催しました。午前は1,2年生、午後からは3,4年生の各学年の代表者6名・計24名によるプレゼンテーションが行われました。学生は自らのキャリアプランニングやゼミナール・卒業研究を通じて学んだことなどを発表しました。当日は学生のみならず学内外の多くの方が参加され、会場には緊張感が溢れていましたが、学生たちは堂々とプレゼンテーションを行いました。発表後の質疑応答も活発に行われ、発表者は多岐に亘る質問にも物怖じせず、堂々と答えていました。今回は審査員として教育ボランティアの8名にご協力いただきました。社会人の視点による客観的な評価により、プレゼンテーション力やコミュニケーション力、分析力、論理的思考力など、コンピテンシーの質保証の担保へ向けた取組となりました。



Assessment | 評価・報告

本取組を点検・評価するとともに、その成果を広く知らせてゆくため、毎年合同フォーラムの開催や学外での発表を行い、年次報告書を発行しております。

■ビジネス実務学会

6月14,15日に札幌国際大学で開催された「ビジネス実務学会」において、竹内一真(研究員)と正田浩三(就業力育成支援室長)が「大手前大学におけるゼミナールの取り組みと卒業後のキャリアとの接続を促す実践」というタイトルで本学の実践事例の報告を行いました。本実践はゼミナールでの学びとビジネス実務との結び付きを深めることを目的とし、3年次必修科目「ゼミナールII」履修生に教育ボランティアとの個別面談の機会を与えたものです。学生は自身のキャリアプランについてプレゼンテーション(5分間)し、教育ボランティアとの質疑応答(10分間)を行いました。事前・事後のアンケートからは学生全体に「職業選択にかかわる不安や戸惑い」の軽減に効果が見られました。また、面談の前にゼミナールでの取組を振り返るなど、しっかりと準備した上で面談に臨んだ学生は、そうでない学生よりも「ゼミナールと職業の関係」に関して理想・現実ともにより高い効果が示されていることなど、詳細に亘る分析結果を報告しました。



■合同フォーラム

9月8日に14大学合同フォーラム「みんなでつろう明日の人材」(於:大阪府立大学)を開催しました。このフォーラムでは、地域が一体となってどんな人材を育てていくのか、そのためにどのようにすれば継続して産学協働を進めていくのかを議論しました。

午後の学生リーダー会企画では、PBL授業の普及や教員維新、キャリアセンター改革、年間履修可能単位の制限(CAP制度)の緩和など、昨年度学生メンバーが提案した「学生が抱く理想の学び」を踏まえ、今年度は提案するだけでなく学生側から行動を起こすことをテーマに、学生のやる気を引き出す方法をプレゼンテーションしました。本学からは3年生の1名が広報グループのリーダーとして参加しました。



■「大学でのキャリアカウンセリングを考える」情報交換・勉強会

教育ボランティア制度をより良いものにするため、10月25日に「大学でのキャリアカウンセリングを考える」情報交換・勉強会を開催し、30名の教育ボランティアの方にご参加いただきました。まず、昨年度までに初年次必修科目「キャリアデザインII」の授業内で行われた学生に対する教育ボランティアのアドバイスを質的分析し、その効果を報告しました。その後、日本キャリア開発協会から講師をお招きし、教育ボランティアとしてどのように学生を支援するかをお話いただきました。最後のグループワークでは、限られた時間の中でどのように的確なアドバイスをするかなど、実際に苦勞した事例を本制度における問題を各教育ボランティアから提起していただき、意見交換・学び合いを行いました。

■ICT利用による教育改善研究発表会

本学の学修支援システムが高く評価され、私立大学情報教育協会主催・文部科学省後援の「ICT利用による教育改善研究発表会」において、芦原直哉 副学長・畑耕治郎 情報メディアセンター長・正田浩三 就業力育成支援室長の共著による論文『学修成果の蓄積とパフォーマンス評価を実現した学修システム群の構築(The Construction of an Integrated Learning System for Accumulation of Learning Outcomes and Performance Evaluations.)』が協会賞を受賞し、11月25日には表彰式が開催されました。受賞理由として、蓄積・振り返り・発展のステップで現状を認識し、成長を確認する4年間蓄積型の授業支援の仕組みづくりや、学生・教員・外部の教育ボランティアによる評価モデルの確立などが挙げられました。



■教育ボランティア懇談会



教育ボランティアの方にお集まりいただき、本学の取組に対して評価・助言を行っていただく、「教育ボランティア懇談会」を3月25日に開催しました。理事長・学長・副学長を始め、必修科目のコーディネーターに対し、5名の教育ボランティアの方から本学の様々なプログラムに関する率直なご意見をいただきました。平成27年度も引き続き評価活動にも力を入れ、内部評価と教育ボランティアを始めとする外部の有識者による第三者評価を行っていきます。

平成26年度実績

I) Competency Faculty

- ・C-PLATS®シラバスの発展(全科目)
- ・OCD 2014【入門編】発行(4月)
- ・Competency Faculty活動実施(毎月)
- ・C-PLATS®項目の改定・ルーブリック作成(4月~)
- ・Competency Faculty活動報告(9月、3月)

II) 就業力育成教育

- ・1,2年生PBL充実(4月~)
- ・教員相互の授業参観による教育の質の向上(4月~)
- ・ピアサポーター制度の充実(4月~)
- ・PBL型インターンシップ実施(7月~10月)
- ・全学プレゼンテーション大会(2月)

III) 教育効果の記録・蓄積

- ・eポートフォリオシステム運用(4月~)
- ・1,2年生映像ポートフォリオ収録開始(4月~)

IV) 外部との連携

- ・教育ボランティア募集継続(4月~)
- ・就業力育成支援室Webページ更新(毎月)
- ・教育ボランティア研修(10月)
- ・教育ボランティア運用(6月~)
- ・教育ボランティア4年生・卒業研究への導入(1月)

報告・評価

- ・合同フォーラム実施(9月8日)
- ・第三者評価実施(3月25日)
- ・報告書発行(3月31日)

今後もこれらの取組を継続していきます。

教育ボランティア募集

本学の学生の就業力について実社会の視点から評価していただく協力者を募集しています。

<活動内容>

- 授業内での活動
 - ・学生の発表評価。
 - ・就業力をつけるための課題提供(可能な方)。
- 授業外での活動
 - ・学習記録(文章・映像など)をWeb上から評価。
 - ・個人面談によるキャリア・アドバイス。

<資格>

- ・本学の教育と本事業の趣旨にご賛同いただける成人の方。
- ・実社会の視点を持ち込んでくださる方であれば現在の職業の有無、年齢などは問いません。
- ・卒業生、通信教育部・在学生の方、歓迎。

<活動時期>

- ・年に数回を予定しております。
- ・活動開始前に2~3時間の研修があります。
- ・基本的にはボランティアでのご協力を想定しており、本学での活動日は交通費程度をご用意しております。

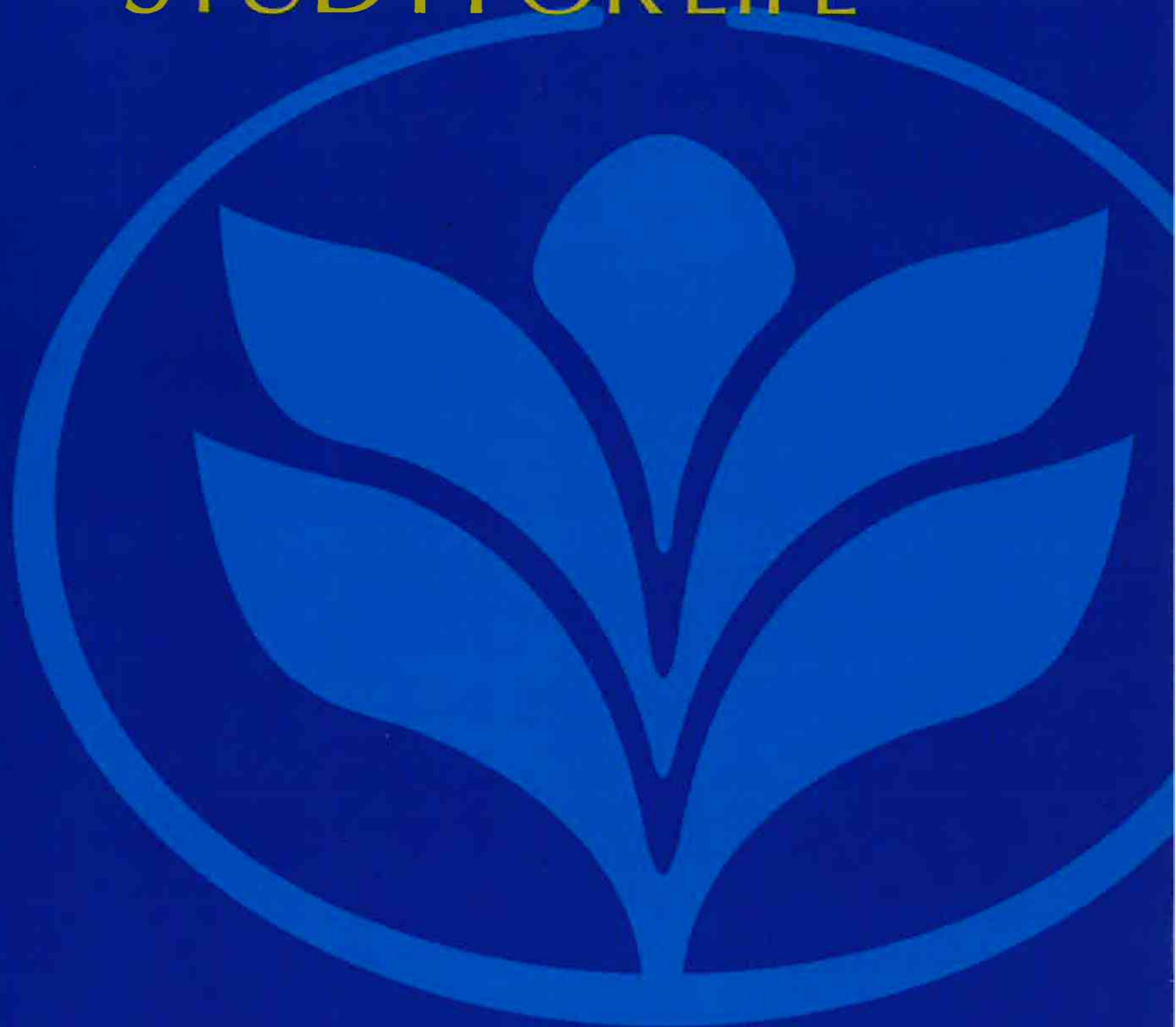
詳しくは就業力育成支援室にお問い合わせください。



OTEMAE

The symbol mark of OTEMAE (The Otemae Flower) is designed to represent the school ideal.
"An open school (open to the community and others) building toward the needs of the future."
It symbolizes a flower growing and blooming toward the heavens.

STUDY FOR LIFE



 大手前大学

就業力育成支援室

〒662-8552 兵庫県西宮市御茶家所町 6-42

TEL:0798-32-7532

E-mail:cplats@otemae.ac.jp

<http://www.otemae.ac.jp/cplats/>